

セクハラに期待して
わざと
無抵抗な選択肢を選ぶ
ゲームブック

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



最近変な噂があります
バックネットの裏から変質者が覗いてきて
自分は監督だとか先生だと言ってるんです
変な人を見かけたらすぐに
職員室に知らせに来てくださいと
教えられました

どんな人が見てくるんだろう
あんなところから覗いて何をするんだろう
もしかしたら本当にどこかの先生なのかも

私は先生に最後の片付けを頼まれて
体育倉庫の鍵を預かりました

体操服に着替えながら
窓から校庭を眺めました

変質者の人に
会ってみたい

変質者の人に
気をつけなきゃ



自主練習が終わったあと
カラーコーンを片付けていた時に
声をかけられました

他の先生はいないのか、今何をしているのか聞かれました

先生は職員室にいて
今は使った道具を体育倉庫に
片付けている途中で
と答えました

荷物を置いて気をつけの姿勢をとれ
と言ってきました

気をつけをする



変質者の気を引けるかも…

そんな悪い事を考えながら
下着を脱いで素肌で直接
体操服を着ました

着替え終わった自分の胸元には
よく見れば気付かれてしまうような
突起が浮かび上がっていました

校庭に出る



バックネットの裏から
私を見つめてくる男の人がいました

この人がそうなのかな…
私は立ち止まってみました

あつ…こっちに来ようとしてる…
どうしよう…?

体操服を引っ張って
乳首を目立たせてみる

近づかれるのを待つ



そのまま気をつけの姿勢を続けて
と言われました

なんだか近いです…
首筋に生暖かい息が当たります

振り向く

言うことに従い続ける



「胸が腫れてるぞ、診てやろうか？」
と心配するふりをして
乳首を触ろうとしてきました

そんな見え透いた
ウソをついてまで…

呆れてしまいました
本当に心配してく
れているのかも
しれません…

むげに拒絶したら
親切心を
傷つけてしまうかも

そうなんです…ここを
いっぱい虫に
刺されちゃいました…

何も言わない

堂々としてれば
気付かれないはず
まだ…バれてないよね？



え…？
準備体操の指導？
ですか…？

指導してもらおう

えっ？
え…？
これって…
私…変なこと
されてるんじゃない？



私…
本当にこのまま…
言うことに従っても
大丈夫なのかな…

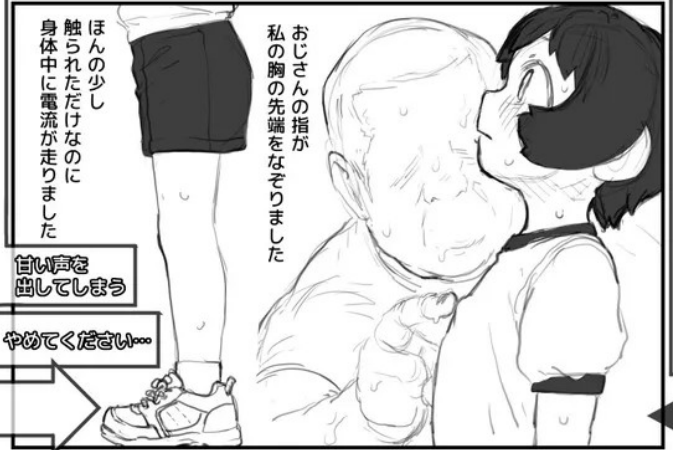
それでも
言われたことに
従い続ける

おじさんの指が
私の胸の先端をなぞりました

ほんの少し
触られただけに
身体中に電流が走りまわりました

白い声を出してしまう

やめてください…



私の体を直接触るのをやめて
体操服を引っ張ってききました
胸の先を
何度も擦り上げられて…

乳首が少しずつ
固くなってきていました…
だめ…戻って…
そう思っても体は勝手に
反応してしまいます

思わすうっとりした表情をしてしまう





私は固まったように
その場に立っていました

無理やり体を触られているのに
私の心はそのまま抵抗しなかったら
どこまでされてしまうんだらうと
考えてしまっていました

私がエッチなことを考えているのが
見透かされていないか
それが心配でした

どうやって誤魔化そう…

それでも
何も言わない

直接触るのは
やめてください…

わ、私…じゃなくて、
ボクは男ですっ



身体検査が始まりました

服の下で大きな手が
モゾモゾ蠢いています

「本当に男子か？」
と怪しまれました

私は嘘がバレるのが怖くて
一歩も動けませんでした

……。

嘘をついた
ことを認める



おじさんの言うことに従い続けていたら
押し付けられていたところから
何かが染み込んできました

今、されていることは
避けるべきことだと
本能が伝えてきています
寒くもないのに震えが止まりません
私はその恐怖から逃れるために
—命乞いしました。

「人目につかないところで続きをしよう」と
言われて私は……

おじさんを体育倉庫に
案内しました…。
(最後のページへ)



鼻息が
当たって
熱い…
もっと見てもらいたいような…
変な気持ち…

下に何も着てないの
バレちゃった…
おっぱい…
見られちゃった

準備体操の指導を
続けてもらう

おじさんは服の上からカリカリと引くように指を動かしたり、優しく揉み込むように触ってきました。最初は怖かったけど、だんだんもっとうほほしい気分になってきて…

「あそこにある倉庫の中で、もっと楽しいことをしよう」と誘われました…

体育倉庫へ一緒に行く
(最後のページへ)

「あは…
本当は…女です、私…
えっと、ほら…胸もありますから…
だから…その、触らないでください…」

「恥ずかしいですが…」

「こんなことをするのは…
見せるのもあなたが初めてです…」

「こんなことは
普段しません…」

「も、もう恥ずかしいから
隠していいですか？」

信じてもらえないので
触って確かめてもらう

おじさんの指が何度も往復しています。私の中の入口を探して…

怖くて緊張して、足の間に力を入れて異物の侵入を拒んでいました

でも…

こうなるまでさせてしまった
自分も悪いので
気が済むまで触らせ続ける

「まだ…バれてないのかな…？
消えたいくらいの恥ずかしさまで、
いたずらが成功した嬉しさのようだな…
そんな気持ちで混ざった
感覚になりました」

私は思わず笑ってしまいました

それがどう受け取られるかも分からず…

「服を脱いで確かめさせて」
汗まみれの笑顔で窺われて、
自分の過ちに気づきました
(最後のページへ)



うっ…押し付けられちゃって…
あやうい…

「あの…まだ片付けをしてる途中なので…
失礼します…」

体育倉庫の前まで
移動する



おじさんは何も言わず
私の中に指を何度も何度も
出し入れしています…

!!
あ、あそこ…指を
入れられてしまいました…
それに言い訳をするタイミングを
逃してしまって…私は…

体育倉庫の片付けを
口実にして逃げる



押し付けられてる
ものが気になる

こんなのが…
この人の…
セックスするための…
それを私に…
このままここにいたら私…
大変なことになっちゃう…
逃げなきゃ…!!

体育倉庫の
中に逃げる



大急ぎで体育倉庫に
走って逃げ込む

わざとゆっくり
体育倉庫に逃げ込む

熱い…
痛痒い…
おじさんの指が…
入っちゃってる…

この人…私に
エッチなイタズラ
するつもりなんだ

あ…

「早く倉庫に入ろう」
しきりに体育倉庫の鍵を
開けさせようとしてきます
男の人の期待と欲望が
嫌でも伝わってきます…

もしも扉を開けてしまつたら
誰にも見つからない倉庫の中で
大変なことをされてしまうでしょう

これは違う鍵だった
と嘘をついて逃げれば
助かるかもしれませんが

こ、これは
違う鍵で…

言われた通り
体育倉庫の鍵を開ける

さつき触られたところが切なくて
自分でも触ってみました…

服の上からなぞるだけで
頭がとろけるような感覚が
眼の奥にふわっと広がります

興奮しすぎて
全身びしょ濡れに
なっていることに
気付きました

濡れた上着を乾かす

濡れたパンツを乾かす

私は体育倉庫に逃げ込みフリをして
おじさんに後をついてきてもらいました
そして体操服をまくり上げ
さつきと同じように気をつけました

この人にこんな事したら何をされるんだろう
私の心臓は怖さと期待で破裂しそうです

イタズラを
させてあげる

鍵を掛ける前に
大きな指が扉をこじ開けました

おじさんは私を逃さないように
入口を塞ぎながらゆっくり入ってきました…
私は声も上げられず
あとずさりして
倉庫の奥へ追い詰められてしまいました

これから何をされるのか
理解して自分から服を脱ぐ
(最後のページへ)

パンツを確認すると
又ル又ルに濡れてしまっています
体育倉庫の中なら誰にも見られないし
脱いで乾かしてもいいよね…?



乾くまで待っていると
入口の隙間から
覗かれているような
気配がしました

もしかして
さっきのおじさんかな…?

疑念を抱きつつ
お尻をさりげなく隠しました
べっしょう…

もし今入ってこられたら
大変なことになっちゃら…
扉に鍵をかけておかなきゃ…

もっと覗かれないから
気付いてないふりをする

乾かないパンツを高いところに干すフリをして
おじさんにお尻を見せてしまいました
これでモット
よく見えるかな…

おじさんの目が
私のあそこを見ているのを
想像して、頭が真っ白に
なるくらい興奮しました
モット…モット見て…♡

私はつま先立ちになり
お尻をさらに
高く掲げました

そのとき、入口の扉が
静かに開く音がしました

何も聞こえなかった
ふりをする

倉庫の入口扉のほうから
なんだか視線を感じます

(覗かれてる!?)
(あの人…やっぱり私のおっぱい
見れて嬉しいんだ…♡)

私はお芝居をする
ことにしました

「やだ…走り高跳びの
台に体操服が
引っかかっちゃった…
取れないよお…」

もっと見て…
わたしのおっぱい…

やっぱり怖いので
扉を施錠しに行く

おじさんは
今まで先生がった態度をしていましたが
もう本性を隠そうともしないで
私のおっぱいに吸い付きました
大人が子ども私の私のおっぱいを
赤ちゃんみたいに吸うなんて…と思いましたが

おじさんが幸せそうに
おっぱいを吸っているのを見て
何も言えなくなりました

引き寄せ
イタズラ
させて
あげる

おじさんと一緒に体育倉庫に
入りました：：：そこで：

本当の検査が始まりました

おじさんに指示されるまま
跳び箱に座らされて

足を広げて腰を突き出しました

おじさんの指が
ハーフパンツの中に
沈み込んでいきます

おじさんは大真面目に
私の身体を調べていました

おじさんの
気が済むまで
検査してもらおう

これでおじさんが満足してくれば
レイプされないで済む：：
私はその提案を受け入れました

私のあそこを見ながら
おじさんはおちんちんを
擦っています：：

そして白いおしっこを
パンツに吐き出して
逃げてしまいました

私は汚されたパンツを
なぜか捨てられずに

そのまま履き直して
家に帰りました

どうして私はレイプ
されずに済みました
—でも…あの時、
無理やり寝られてたら
どうなったんだろう
レイプって…
どんな感じなんだろう
(最初は戻る)

後ろから手が
伸びてきて

体操服の上から
スリスリと
乳首をなぞられました

何度も
何度も

固くなっていく
胸の先端を
確認するように
何度も：

私は何も言わず
される行為を、
全て受け入れました

イタズラされることの
気持ちよさを、たっぷり
教えてもらえました
BAD END?

体操服のふわふわした生地の中はおじさんは頭を
潜り込ませておっぱいを吸い始めました

大人が子どもの私にこんな姿を見せるのは
まっとうでも恥ずかしいはずなのに…
私のことを甘えさせてくれる人だと
思ってくれたからでしょうか

誇らしいような、
守ってあげなきゃいけないような
気持ちになりました

好きだけ
おっぱいを
吸わせる



突然扉が開く音がして後ろから
羽交い締めにされました

自由を奪われて…
目も塞がれて…
私…レイプ
されてる…!!
…知らなかった

「レイプって
どんなに気持ち
いいんだ…」

危険な時間、危険な場所に
レイプされるのを期待して
出歩くのが趣味になりました
HAPPY END?



「嘘つきにはおしおきた」
おじさんは
私の嘘を見抜いて
鍵を奪い取って
倉庫の扉を開けました

そう言っ私を奥の棚に
押し倒してきました
大人の男の人の体重をかけられて
身動き一つできなくて苦しいです
ハーフパンツに硬いものが押し付けられて
服が裏返ってる部分が
ヌルヌルになってます…
薄めたスライムみたいな
ものが服の向こうから
染み込んできます…

必死に
抵抗する



パンツまで脱がされてしまいました
ぬるぬると泡立った布から伸びた粘液が
私のおそこの中で繋がっていました
それはまるで
ナメクジが這った
跡のようで…
嫌悪感を
おぼえました

それなのに私は
汚された自分のパンツから
目が離せませんでした

そんな私に
おじさんが提案をしてみました
「病気がもしれないから
薬を出してあげる」

おじさんの
提案を受ける



突然力強く抱きしめられて
キスされてしまいました
ファーストキスだったので
びっくりしてしまいました
この人がしたいと思ってるなら…と
私からも唇をのばしました

これが…
はじめてのキス…
この人が私の
はじめての人…

お腹の奥が
ムズムズする…



おじさんがこの行為をやめてくれる気配がありません

おじさんは私のあそこはどうしてもおちんちんを入れたいみたいです好きでもない男の人とそんなことはできないと私の体は最後の抵抗を続けていました

…もう逃げられないのに…

これ以上逆らっても苦しいのが続くだけ…もう、諦めよう…

体の力を抜く



私は苦しみから逃れるために力を抜き始めました

深呼吸しながら一呼吸ずつ…

少しずつ…

入りそうにないものを迎え入れました…

そして…

奥まで入れてもらう



大きな体が覆いかぶさって来ました

熱くて大きなもので内側から引き裂かれる感覚…

すくすく…

ぐわんぐわん…

この苦しみが早く終わってほしいそれ以外何も考えられません

だれか…たすけて…

我慢できず泣いてしまう



一瞬、逃げる以外のことを考えてしまった私は再び倉庫の奥に引きずり込まれました

今度は最初から容赦なく、私のあそこの中におちんちんを入れてきました

どんなに泣いてもおじさんはやめてくれませんでした

BAD END

私が泣き出すと
おじさんが躊躇ったのか、少し力を緩めました
その際に私は出口に突き進みました



扉まで辿り着いた時、
おじさんが追いかけて
こないことに気付きました

おじさんは私を
苦しめるつもりはなくて、
一緒に気持ちいい事を
したかっただけかもしれない

今のうちに
逃げなさい

おじさんと
目が合いました
こんな事をしていいのかと
怯えているように見えました



多分私たちは同じ気持ち
抱いたままお互いに遠慮して
いたんだ…

私だって…子供なのに
セックスに興味を持ってしまったから…

一緒に悪いことをする

私は入口を開けて
おじさんの方に向き直りました

きつと服を着たままだから
痛くて苦しかったんだ…

だって教科書に載ってるセックスの説明は
男の人も女の人もハダカになってたから…



ハーフパンツを脱いで
セックスする意思を
アピールしました

そして仲直りするための笑顔を作って
おじさんへ話しかけました

「今度はちゃんと
気持ちよくしてくださいね」

体操服も脱いで
セックスの準備を進める

男の人にじつと見つめられている前で
服を脱ぐのは恥ずかしいです

ハダカにならないといけない、と
分かっているもやっぱり…

「あの…私も脱ぎますから
一緒にハダカになって
くれませんか？」



おじさんは快く頷いて
服を脱いでくれました

セックスの準備は整いました
もう後戻りできません

おじさんの方に
歩いていく



私…

この人の

セックス道具になるんだ

おじさんの上にもたがる



「はあ…あつ…あつ入るっ…」

「あぢぢよつとで入りませす 待っててください」

「入れてください… 自分で出来ますから…」

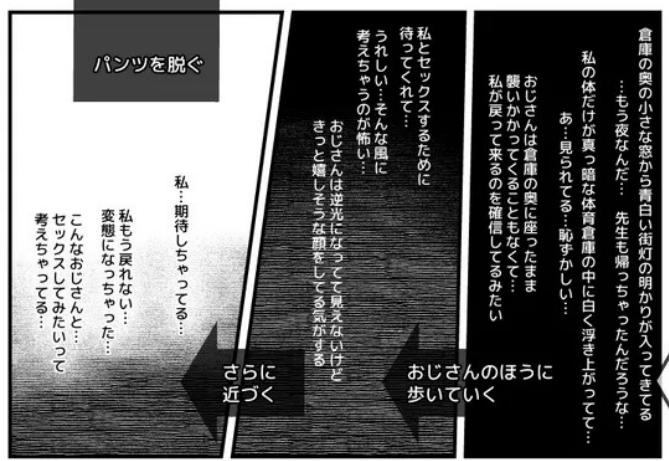
「はあ…あ…」

おじさんは何もしてきません 何を考えているんでしょう 真っ暗で表情は見えませんが 笑っているんですか

さっきみたいに 無理やり入れようと してこないのは なぜでしょう…

今すぐ裸のまま体育倉庫を飛び出して 誰か助けてと叫んだら この人から逃げられるかもしれません でも…私は…

お尻をくねらせながら 静かに腰を下ろす



パンツを脱ぐ

倉庫の奥の小さな窓から青白い街灯の明かりが入ってきてる …もう夜なんだ… 先生も帰っちゃったんだろう… 私の体だけが異つ暗な体育倉庫の中に白く浮き上がってる… あ…見られてる…恥ずかしい… おじさんは倉庫の奥に座ったまま 腰いかかってくることもなくて 私に戻ってくるのを確信してるとみたい

私とセックスするために 待っていて… うれしい…そんな風に 考えちゃうのが怖い… おじさんは逆光になって見えなけれど きつと輝いてるような顔をしてる気がする

私…期待しちゃってる… 私もう戻れない… 変態になっちゃった… こんなおじさんと… セックスしてみたいって 考えちゃってる…

さらに 近づく

おじさんのほうに 歩いていく



「あつたかい…です、お腹のっ…なかが…」

「ちゃんと…セックスできて うれしい…です♥」

「私…子供ですけど、 ちゃんとお嬢さんになれますよ」

「あはっ…♥」

さっきは痛くて 苦しいだけだったのに 今では胸がいっぱいで… 幸せな気持ちです

子どもと大人でも ちゃんとセックス できました

やっぱり教科書は 間違ってたんだ！

幸せ…ただ…これって気持ちいい…のかな…？ おじさん…おじさんは私の身体で 気持ちよくなれてる…？

私…この人の 花嫁さんになります
BAD END

全然知らない人が相手だからこそ
普段の私では考えられないような事
することができました

甘えん坊の赤ちゃんに
おっぱいをあげながら
犯してもらいました

誰にも言えない願望を
お互いの身体で
一緒に叶えました

おじさんとは
もう会わない
つもりでした

—おじさんに
会いに行く—

床に座り込んだおじさんの上に
ゆっくり腰を下ろして
そしてそのまま...

夕日でキラキラ光る埃が
漂っているのが幻想的でした

誰にも見つかからないように
息を潜めて静かに抱き合っ

数か月後

学校に行くのも大変になってきました
自分の身体に起こっていることもその理由も
全部誰にも言えずに隠して過ごしていました
...いっそバシてしまえばよかったのに...
そんな風に毎日心臓を締め付けられながら
今日も何事もなく過ぎていきました

学校が終われば隣目もふらず
赤ちゃんのお父さんに会いに行きました
暗い秘密を共有できる人がいるのが
今の私にはすごく心強くて...



安心を得る代償に
身体を捧げてしまいました
BAD END

苦しい
あついのどが濁いて
何も考えられない

またお腹の中に
何か出された

もう何をされてもいいから
放してほしい

まだ
飽きないの...?

早く...
私に飽きて...
BAD END



「こんな裸で、扉の中...」
「私の身体...」
「犯されるのを待つ...」

「こんなに不安で怖いのは...」
「私一人だけで守られてる...」



「私もう逃げられないんですよ...」
「服は...脱いだほうがいいですよ...」

「自分が絶対に助からないことを悟ったマウスは、全身の力を抜いて苦しまないように食べられてしまってます...」

「服は脱いでください、優しくレイプしてください」



「もう逃げたりしませんから...」
「たすけてください...」
「痛い...」
「怖い...」
「だから...」

「これからどうしよう...」
「お母さんや友達になんて言おう...」
「私の顔の中は...」
「もうめっちゃくちゃでした...」



「セックスもレイプもしていいです...」

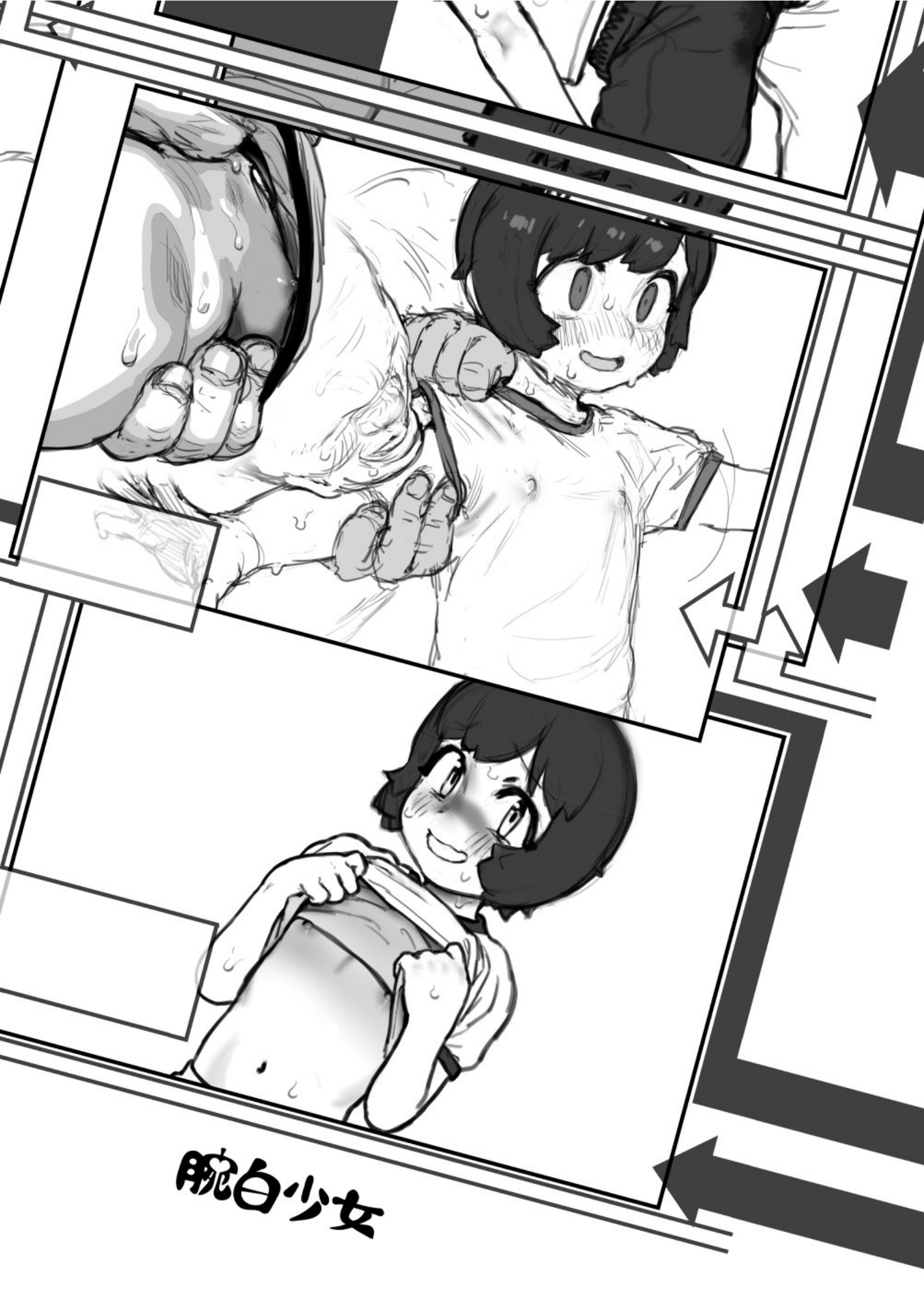
「どうぞ...」
「犯してください...」

「気の済むまでセックスしてください...」

「それ以上...」
「何もしないで...」
「怖い...」
「怖い...」

「これ以上怖い気持ちにさせないで...」

「犯してもらいやすいように足を広げる」



腕白少女

セクハラに期待して
わざと
無抵抗な選択肢を選ぶ
ゲームブック

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

腕白少女